



住吉教会 2015 年度テーマ
「殉教者の霊性を生きる」
—信仰刷新の年—

10月の特別な日

コンスルタ神父

教会暦上、(待降節や四旬節などではない) 通常時である10月の間、典礼はキリストの一つの特定の神秘に焦点を当てませんが、そのすべての面でキリストの神秘を見ています。10月は一年のうちで楽しい時期です。秋はみごとな紅葉を見せてくれます。気温は涼しく、人々を自然の中の散策やリンゴ狩り、ブドウ狩り、またはピクニックなどのために野外に誘い出します。

そんな10月の教会の祝祭もまた独特で素晴らしいものです。世界中の教会のよく知られた聖人たちの祝日もこの月にお祝いされます。小さき花のテレジア (フランス)、アシジのフランシスコ (イタリア)、アビラのテレジア (スペイン)。そして10月には二つの最もよく知られた伝統的なカトリックの信仰の対象である祝日があります。守護の天使の信仰 (10月2日) とロザリオの信仰 (10月7日) です。10月16日は歴代と現在の教皇様からの祝福を祝う「教皇様の日」です。

すべての人が守護の天使に見守られており、10月2日はこれらの守護の天使の役割を教会がお祝いする日です。守護の天使は私たちに人生の困難に立ち向かう自信を与えてくださいます。

10月をロザリオの月としてお祝いする伝統は1571年にさかのぼります。オスマン帝国の軍隊がヨーロッパの中心地であるイタリアを奪取しようとしていました。そのオスマン軍をカトリック同盟国が打ち破った戦いが1571年10月7日でした。聖母に勝利のとりなしを願い、戦いに向かう船に乗るすべての人がロザリオを携え戦いに向かったのです。勝利の後、人々が戦地から帰還すると、教皇様は勝利の聖母の日を祝うことを宣言されました。やがてこの月全体がロザリオに関連付けられるようになり、1884年にレオ13世が正式に10月をロザリオの月と宣言されました。私たちの行動力とさらなる情熱をもって聖母により頼むことを常習とされ聖母の救済ととりなしを求められた教皇様の先駆者としての例に続くように、10月の一か月、最も聖なるロザリオによって神の母を皆で讃えましょう。

皆様へ

現在病気や高齢のために教会に行くのが困難な方で聖体、病者の秘跡、その他の祈りを必要とされる方はご遠慮なく直接ブラッドリー神父 (携帯電話番号: 080-1998-6340) 又は神戸中央教会 (078-221-4682) までお申し出ください。緊急の時も同じようにしてください。(ブラッドリー・ロザリオ神父)

2015年9月度住吉教会評議会議事録

1. 日時 2015年9月20日(日) 11:15~13:05

場所: 1階第2会議室

出席者: ブラッドリー神父、松谷園長、評議会委員

2. 始めの祈り

3. ブラッドリー神父様からのお話

待降節にむけての黙想会の準備取り組みの提案

「小教区としてひとつのテーマがあってもいい。たとえば『家族と祝うクリスマス』
お一人暮らしの方、家族が信者でない方・いろいろな家庭があるけれども、小教区として心を合わせてクリスマスの準備をしていきたい。『私の心にイエス様が生まれる』のを『待つ』キリスト者としての恵みを振り返る機会としては」

「黙想会指導司祭のお話の『講演会』になってしまっはいけない」

4. 行事計画の補正、追記(ミサお知らせ参照)

5. 議事(1) 待降節黙想会について(降待節第一主日 11月29日(日) 予定

- ・ (解説) 東ブロック会(9月13日) 議事録参照

従前: ミサ、講話、ゆるしの秘跡(概ね9:00~12:30頃)

ブロックを超えた指導司祭の御依頼、住吉・神戸中央教会担当司祭・協力司祭

への御依頼、又は六甲教会のケース: 時期をずらし、10:00~16:00。

黙想会のあり方の検討。

- ・ 議長からの提案・他の教会から神父様をお招きしてではなく、住吉・神戸中央共同宣教司牧担当司祭、協力司祭にお願いしてはどうか。(すでにブラッドリー神父様は11月29日ご予約が入っている)
- ・ 議長団、典礼、養成チームで話し合って方向づけを考えることとなった。

(2) 新生20周年の振り返り: 教区アンケートの提出について(9月30日教区へ切)

- ・ 評議員で未提出の方は連休中に提出してください。

(3) 新生20周年の振り返り: すみよし誌クリスマス号、信徒投稿募集、とりまとめ

教区20周年の振り返りを住吉教会として、評議会各チーム、委員会、グループ、信徒個人から寄稿いただき、振り返りのまとめとしてすみよし誌に掲載することとなり、紙面の確保(何ページ可能か)、原稿募集期間、編集について評議会議長団と広報チームが、詳細な打合せを行い、実施することとなった。

(4) 星の園幼稚園連絡・協議事項

9月2日より2学期スタートしました。

10月10日(土) 第62回運動会 (雨天の場合 12日(月))

11月12日 七五三のお祝い

12月18日 クリスマス会

(5) 墓地委員会報告及び11月1日(日)ミサについて、墓参について(T副議長)

①住吉教会死者追悼ミサ

11月1日(日)9:30のミサを住吉教会ゆかりの死者のためにささげる。

- ・ 祈念する故人の名前をカードに書いていただき奉納する。
- ・ 共同祈願の最後にすべての死者のための祈りを全員で唱える。
- ・ 昨年祈念堂を閉鎖したので焼香はしない。
- ・ ミサの後茶菓を用意して(拡大ミサゴ)くつろいでいただく。

②神戸地区墓地合同墓参

舞子墓園 11月1日(日)14:00 墓地委員が同行して住吉教会を12:30に出発しJR, 山陽バスを利用。交通費、昼食代は各自負担

鶴越墓園とべら地区 11月1日(日)14:00 墓地委員は同行しない。

③教区納骨者および死者祈念ミサ

11月3日(火)11:00 大阪カテドラル大聖堂

正田、景山、滝川が同行して住吉教会を9:30に出発しJRを利用。

交通費、昼食代は各自負担。現地解散とする。

以上3件を遺族に案内状を郵送し、合わせてミサの後にお知らせをする。

(6) N副議長提案事項、評議会で承認。(評議会決定事項につき、問合せ等ございましたら直接評議会議長まで御願いたします。)

①信仰の質問箱設置について

信仰についての質問を受ける事があるのだが、信者では答えられないこと等もあるので質問箱を設置して、質問事項を入れていただき、典礼・養成チーム回収後神父様にお渡しし、お答えいただく。その内容を「すみよし」号等に記載して広くお知らせもするという流れで。「御意見箱(教会全般)」については評議会議長に直接提出願います。

②クリスマスツリー電飾、電灯購入について

現在の住吉教会の電飾は老朽化により光の数も少なくなり、設置も大変になってきているので、新しい電飾の購入の許可を申請したい。南浮さんが候補のものを探し予算をお知らせくださる。また、現在、飾り付けは中高生が中心となっているが、人数が集まらないこと・高いところの作業で困難を伴っていること等から、大人の方のお手伝いも広くお願いしたい。

③中高生プレゼビオ(馬小屋)作成について

中高生ミサゴの収益金の4万円がお泊り会等のあとも予算確保出来ているので、手作りで馬小屋を作っていきたい。今年の待降節に間に合えばその馬小屋を飾り、間に合わない場合は例年の馬小屋を飾ってほしい。

(7) 秋の行事について

①10月25日(日)バイリンガルミサ、セニョール・デ・ロス・ミラグロス

- ・ 10月3日(土)10:00から聖画額を物置から出し、聖堂に安置する。
- ・ 10月24日(土)飾り付け、料理準備でキッチン使用。

- ・10月25日(日) 10:00バイリンガルミサ(ラモス神父・傘木神父司式)
ミサに続いて奇跡の主行列(教会・幼稚園敷地内周回)、ペルー料理販売
プログラムスタート 16:00頃終了予定
- ・ポスターをHP記載。教会に貼る(できれば日本語 ver ポスターも)→広報
- ・典礼チームと当日の典礼について相談
- ・10月24日にすみよしフェスタが近くの公園で開催予定。雨天の場合25日になり「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」の日と重なる。公園での飲食・アルコールの販売があるので、昨年そちらで買った人が教会でアルコールの飲用・ゴミの不始末等があったので、当日の警備メンバーの方は注意を促してほしい。
- ・日本人信者は毎年ミサ終わるとすぐ帰ってしまわれるので、どうぞ一緒に行列やお祭りに参加してください!
- ②11月 8日(日) 住吉教会バザー(ファミリーフェスタ)について(要項案参照)
 - ・ブラッドリー神父からの疑問と提案~バザーは毎年すべきなのか。
趣旨に「東灘に位置するカトリック教会として、宣教、地域のふれあい~等々」あるように宣教を目的としてので、宣教チームが入った方がいいのでは。またみんなが「新しい人を何人かバザーにお声かけしてきていただきましょう」といった取組も必要なのではないか。
 - ・バザー実行委員長はNさんに決定(お仕事をしているので、評議会メンバーでサポートしつつ)
 - ・実行委員会を出来るだけ早く開き準備にとりかかる。
- ③11月15日(日) 七五三について
 - ・お祝いに該当する住吉教会の7歳児・3人、5歳児・4人、3歳児・0人
10月に入ってお声掛けします。(あめは幼稚園にお願い済み)

(8) その他

- ① 2階司祭居室部分の換気をこまめにする必要がある
- ② 2階和室の畳が毛羽立ってきている。そろそろ畳の表替えの時期ではないか
- ③ ブラッドリー神父から
 - ・ ミサの前 沈黙を。受付や準備等で働いている方も、なるべく声を落として
 - ・ スピーカーから流れる「ロザリオの祈り」に心をあわせて沈黙のうちに。
特に5分前からは沈黙を。
 - ・ ミサのあとのお知らせが長すぎる。
また高齢の方には紙ベースのものをお渡しした方が忘れないでいいのでは。そこにちょっとした祈りの言葉やイラストも添えるといいのでは。
 - ・ 上記に対して評議員から。「プリント類が多すぎる」「幼稚園ではよくわかるように大きく掲示している」「お知らせの内容の情報量が多くて記憶に残らない。・月報にのせるもの・長期の予定のもの・ミサの終わりに口頭でお知らせするもの・小さい紙に載せるもの(重要なもの)・・・を分けてそれぞれにあう形態でお知らせする方向を検討しては」

6. 終わりの祈り

次回評議会：ブラッドリー神父様、10月末から11月20日まで海外出張のため帰国後。

セニョール・デ・ロス・ミラグロスについて

その起源は350年以上前の出来事に由来します。スペインによる統治時代の1651年、ある敬虔な黒人奴隷が南米ペルーの首都リマのパチャカミリヤ地区（当時リマの中でも特に貧しい人々の住む地域だった。）の粗末なレンガの壁に主キリストの磔刑像を描きました。

数年後の1655年11月にリマの街は大地震に襲われ全市はほぼ瓦礫の山と化していましたが、不思議なことにこの絵が描かれた壁は奇跡的に崩れませんでした。

その後1670年にアンドレス・レオンという人が全く見捨てられていたこの壁の周りの塵を払い、花やローソクで飾りつけ、屋根をつけました。彼は数年来悪性腫瘍を患っていましたが、毎日この絵の前にひざまずき、「どうか治りますように」と祈っていました。すると腫瘍は少しずつ消え始め、やがて完治してしまったのです。

その後1687年10月にも大地震が起きましたが、今度もこの壁は無傷のままでした。そのころからこの絵は奇跡のシンボルとされ、「セニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）」と呼ばれるようになり、聖画像を戴いた御輿を担いで奇跡をたたえる聖行列が行われるようになりました。

この御輿の表側には上述の磔刑のキリスト像、もう一方の側には1696年に北隣の国エクアドルに現れた聖母マリア「ビルヘン・デ・ラス・ヌベス」の絵が描かれています。

聖行列に際し、信徒たちは主キリストのご受難にちなみ、紫色の衣を身に着け白い帯を腰に巻いて参加します。

セニョール・デ・ロス・ミラグロスは今ではリマのみならずペルー全体の国民的行事となっており、ペルー以外でもそこに住むペルー人たちによって行われるようになってきました。住吉教会では1991年から行われるようになりました。遠く母国を離れて暮らしているペルーの人たちの最大の宗教行事に私たちも一緒に参加して共に祈りを捧げたいと思います。

今年は10月25日（日）10：00 ミサ
ミサ終了後 聖行列

聖行列終了後フェスタを催しますのでペルー料理や音楽、民族舞踊等をお楽しみください。

教会維持費について

いつも教会維持費へのご協力有難うございます。教会維持費制度は日本の教会固有の信徒の奉仕です。対象は成人以上で 収入のある方です。困難な方もおられるとは思いますが、教会共同体を支え育てるため 可能な限りのご協力をお願いいたします。神に感謝 （財務チーム）